令和５年１２月２１日
保　健　医　療　局

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎が流行
都内で警報基準に達する

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎（溶連菌感染症）は、例年「春から初夏」にかけてと「冬」に学童期の小児に流行する感染症ですが、都内の小児科定点からの第 50 週（12 月 11 日から 12 月 17 日まで）における患者報告で、警報レベルにある保健所の管内人口の合計が都全体の人口の 30%超となり、都全体としての警報基準に達しました。**今後、さらに流行が拡大する可能性もあるため、十分な注意が必要です。**

なお、都内のＡ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告が都全体としての警報基準に達するのは、感染症法が施行された 1999 年以来初めてのことです。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は主に飛沫感染と接触感染により感染します。予防、拡大防止のために、引き続き、こまめな手洗いや咳エチケット等の基本的な感染防止対策を一人ひとりが心がけてください。咽頭痛がある場合は早めに医療機関等を受診し、検査を受けましょう。

【Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者発生状況】

◆　小児科定点医療機関から報告されたＡ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者数を保健所単位で集計し、１定点当たり 8.0 人／週を超えると警報開始となります。警報は 4.0 人/週を下回る（警報終息）まで継続し、警報開始から警報終息までの間の状態を「警報レベル」としています。

◆　2023 年第 50 週（12 月 11 日から 12 月 17 日まで）の都内 264 か所の小児科定点医療機関から報告された定点当たり患者報告数（都内全体）は 6.05 人（／週）となっています。

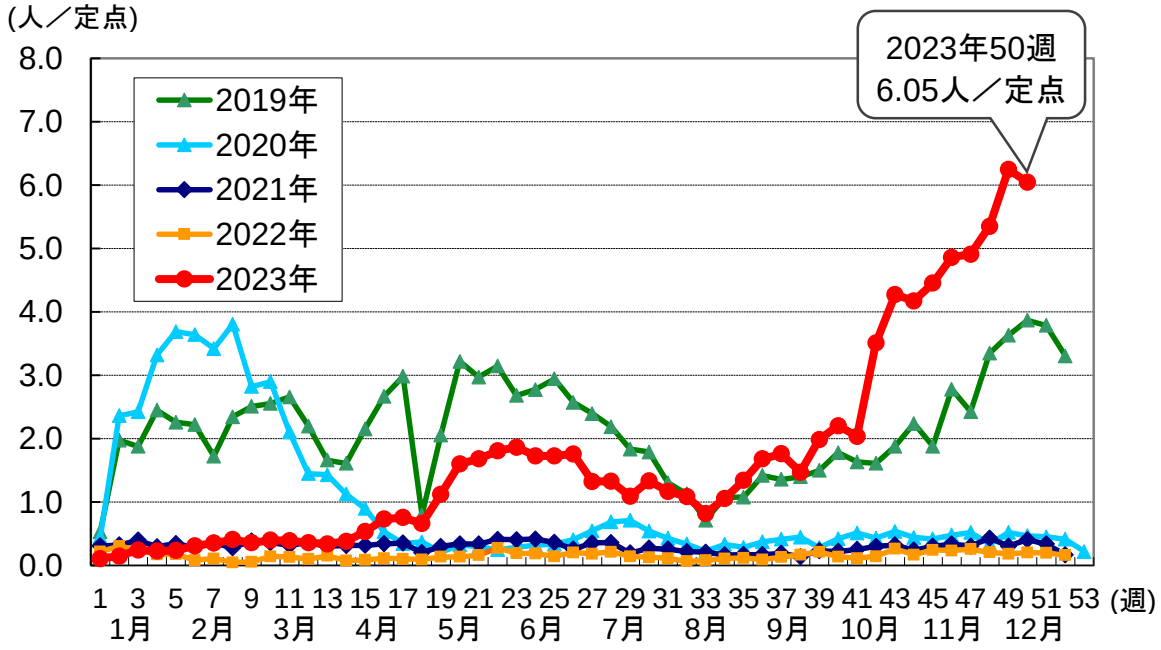
◆　保健所別の患者報告数が警報レベルにあるのは、31 保健所中８保健所で、管内人口の合計は、東京都全体の 30.0%※になります。

※８保健所の管内人口合計 4,219,378 人／東京都全体人口 14,063,564 人
＝30.002%

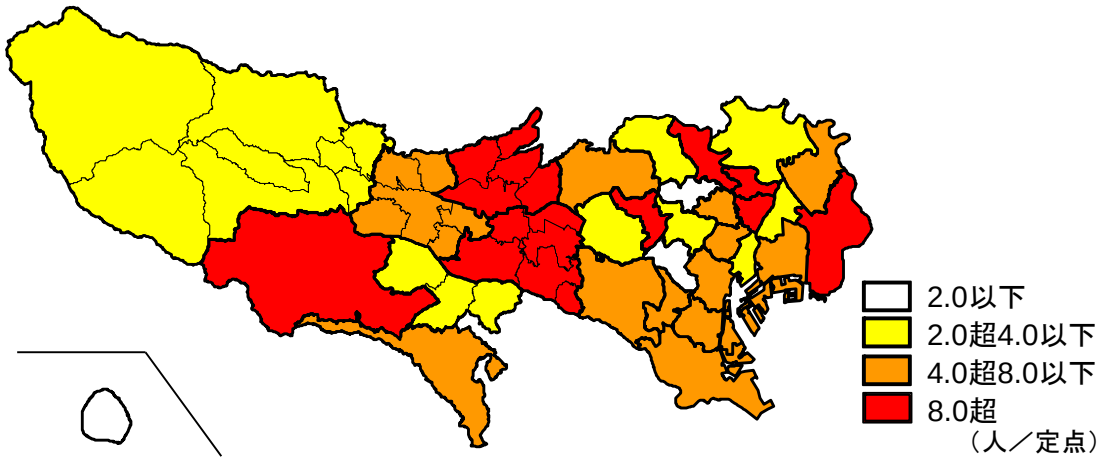
都の警報基準（以下の①または②のどちらかが基準値を超えた場合）
①　定点医療機関からの患者報告数が、都全体で警報レベル開始基準値を超えた場合
②　警報レベルにある保健所の管内人口の合計が、東京都全体の人口の 30%を超えた場合

【問合せ先】
○　感染症に関する東京都の対応等、全般に関すること
東京都保健医療局感染症対策部防疫課　03-5320-4088
○　感染症患者の報告数（感染症発生動向に関すること）
東京都健康安全研究センター企画調整部健康危機管理情報課　03-3363-3213

東京都における定点当たり患者報告数（A群溶血性レンサ球菌咽頭炎）
（過去5シーズン）



東京都におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生状況（保健所管轄地域別）
（2023 年第 50 週）

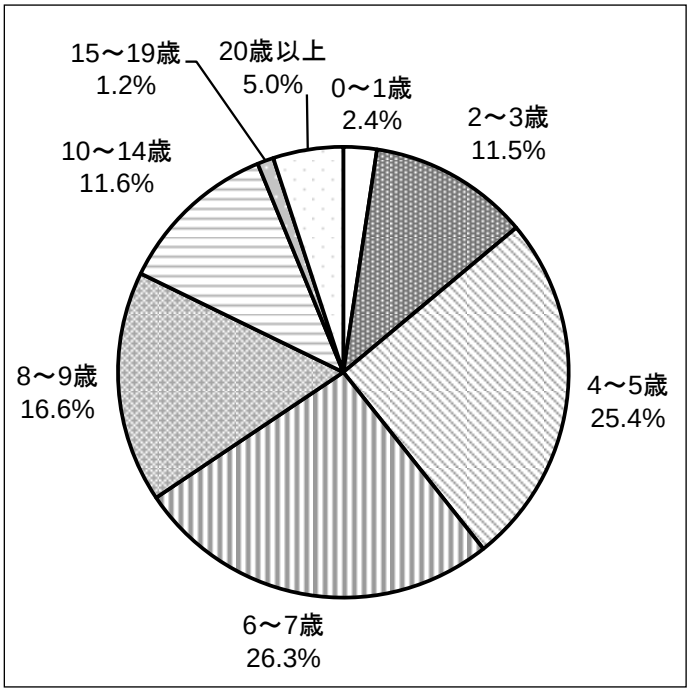


- 発生状況（定点当たり患者報告数）の塗り分けは、各保健所の管轄範囲が単位（例えば、小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市は全て、管轄する多摩小平保健所における発生状況に対応した色で塗り分けられている）です。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎については、「保健所単位で定点あたり 8.0 人／週を超えてから 4.0 人を下回るまでの間」を警報レベルとしています。現在、警報レベルにある保健所は、都内 31 か所中 8 か所で、報告数が高い順に、江戸川（11.91 人）、中野区（11.00 人）、多摩小平（10.57 人）、北区（9.57 人）、荒川区（9.00 人）、八王子市（8.73 人）、台東（8.25 人）、多摩府中（8.24 人）です。

※　最新の情報については、東京都感染症情報センターのウェブサイトをご覧ください。
https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数の年齢階層別内訳
（2023 年第1週から第 50 週分）

累計報告数（ｎ＝22,366）



Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎について

1　Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは、Ａ群溶血性レンサ球菌を原因とする上気道の感染症です。概ね２～５日の潜伏期間の後に、突然 38℃以上の発熱、咽頭発赤、苺状の舌等の症状を呈し、しばしばおう吐やおう気を伴います。３歳以下では、鼻炎症状や発熱、不機嫌、食欲不振等の症状を呈します。多くの場合、熱は３～５日以内に下がり、１週間以内に症状は改善します。

まれに重症化し、喉や舌、全身に発赤が拡がる「猩紅熱（しょうこうねつ）」に移行することがあります。

合併症には肺炎、髄膜炎、敗血症、リウマチ熱、急性糸球体腎炎などがあります。

2　主な感染経路

患者の咳（せき）やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛沫感染」と、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」により感染します。

3　感染防止対策のポイント

① こまめに手を洗いましょう。
② 普段から一人ひとりが咳エチケットを心がけましょう。
③ 流行時には、マスクの着用も有効です。

《咳エチケット》～感染拡大を防ぐために～

- ○ せき・くしゃみの症状がある時は、マスクをしましょう。
- ○ せき・くしゃみをする時は、口と鼻をティッシュでおおいましょう。
- ○ せき・くしゃみをする時は、周りの人から顔をそらしましょう。

4　Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の治療

抗菌剤による治療を行います。腎炎などの合併症を防ぐため、症状が改善しても、主治医に指示された期間、薬を飲むことが大切です。

喉の痛みがひどい場合は、柔らかく薄味の食事を工夫し、水分補給を心がけましょう。